



「太陽光発電とEVを使ったコミュニティの脱炭素化に向けた フューチャー・デザインワークショップ」

参加募集要項

京都未来門プロジェクト
代表：小端拓郎

2050年カーボンニュートラルを実現するためには、2050年の脱炭素地域の社会像を描き、屋根上太陽光発電やEVの導入を含めた再生可能エネルギーの導入などの具体的な施策を加速していく必要があります。例えば、屋根上太陽光発電を効率的に使うには、EVを蓄電池として使い、コミュニティで太陽光発電の余剰電力をやり取りするシステムを用いることで、2030年には大幅なCO₂削減とエネルギーコストの削減に繋がることも分かってきました。2050年に向けて、地域コミュニティではこういった対策や施策が今後必要となるか、皆で共有していく機会がますます重要になってきています。

そこで、京都と関連のあるステークホルダー主体となり京都の脱炭素化を目指す「京都未来門プロジェクト」が、コミュニティの脱炭素化を目指すワークショップを開催します。

なお、PVとEVを活用した地域分散型エネルギーシステムは、隣接する建物間（例えば道路を挟まない街区）で構築するため、できるかぎり建物が隣接する街区内でのコミュニティの参加を募集します。ワークショップでは、将来世代に持続可能社会を引き継ぐための様々な仕組みをデザイン・実践するフューチャー・デザイン（FD）という考え方を活用します。

「将来世代」の視点から現在の地域コミュニティのあり方を考察し、カーボンニュートラルを目指した施策や道筋のデザインを一緒に考えてみませんか。

期間：2022年10月後半-12月：ワークショップを 4回程度 1回2時間

人数：4-5グループ（1グループ4-5人:最大20人）

謝金：(1人1回3000円)

原則的に対面実施を予定（ただし、新型コロナ感染症対策を徹底して実施します）

**連絡先：京都市環境保全活動推進協会（井上：kazu.inoue@ma21f.jp）
テラエナジー（本多：honda@tera-energy.com）
気候ネットワーク（田浦：taura@kiconet.org）**

主催：京都未来門プロジェクト

共催：大阪大学工学研究科テクノアリーナ「原フューチャー・デザイン革新拠点」、
京都市環境保全活動推進協会、テラエナジー、気候ネットワーク